



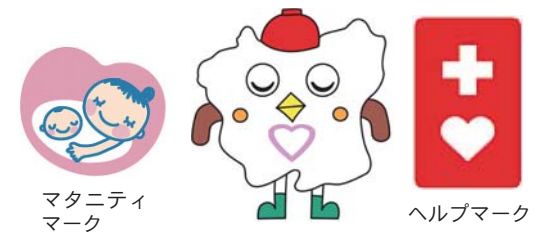
パートナーシップ

助け合い、手を取り合い 協働の社会づくりを

パートナーシップとは「協力関係」「連携」といった意味があります。SDGsは、世界が連携し、世界中の人々が協力し合って目標を達成していくことを目指しています。

世界中が抱える課題の中には、個人で解決するにはあまりにも大きく、できることはないのではと思うこともあるかもしれません。しかし、個人、企業、国など、それぞれがお互いの強みを活かし、パートナーシップを組むことで、SDGs 実現の可能性を広げることができるようになります。

共生社会



SDGs×共生社会
援助や配慮を必要とする人がそのことを周囲に知らせる「ヘルプマーク」、妊娠していることを示す「マタニティマーク」。これらのサインへの気遣いや行動も、壁のない共生社会とパートナーシップの構築につながるものです。



ふるさと応援寄付金

SDGs ×ふるさと応援寄付金

ふるさと応援寄付金は、まちづくりや観光、産業・企業振興などさまざまな観点から地域の活動を支援することができ、SDGsの目標達成に貢献することができます。

令和3年度に全国から登米市に寄せられた寄付金は、約5億6千万円(約3万5千件)でした。寄付金は、自然環境保全や、医療機器などの購入、教育環境整備事業などに充てられています。



写真提供：加賀野小学校

【問い合わせ】まちづくり推進部 観光シテタイプロモーション課(ふるさと定住係)
☎0220(23)7331

全国からの寄付金により、市内小中学生全員に「タブレット端末」を配備。授業や活動に活用しています。

人道支援

SDGs ×ポーランドへの人道支援



駐日ポーランド共和国大使館のバヴェウ・ミレフスキ大使が表敬訪問(4月25日)

登米市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で、ポーランド共和国ポルトチームの事前合宿を受け入れました。

市はこの交流の縁から、ロシアのウクライナ侵攻により多くのウクライナ避難民を受け入れ支援しているポーランド共和国に対し、救援活動を支援するため、寄付金口座を開設し寄付金を受け付けています。11月14日現在、寄付金の送金総額は762万5349円となっています。

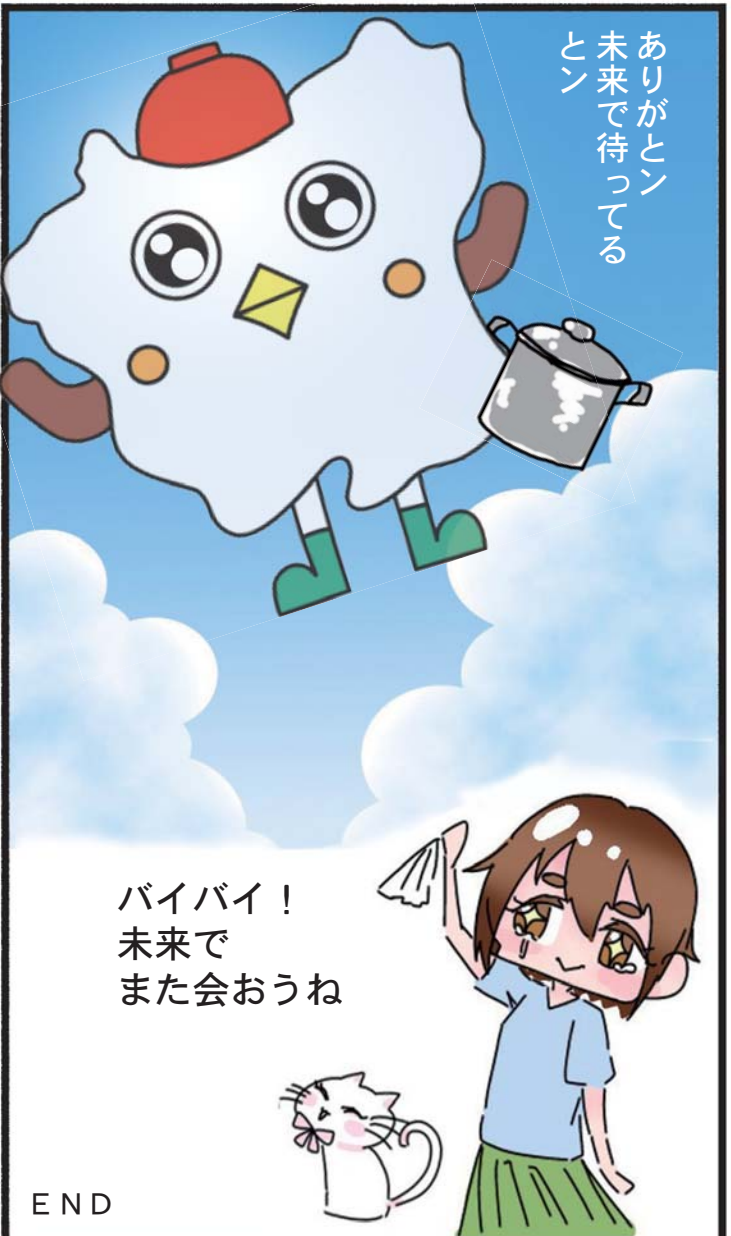
【問い合わせ】総務部市長公室(政策マネジメント係)
☎0220(22)2090

SDGs×登米市

SDGs 達成の第一歩は、一人一人が関心を持ち理解することです。食料やエネルギーの無駄をなくすこと、寄付や支援をすること、身近な人の悩みに耳を傾け自分の近くにある社会課題に気付くこと。日常の何気ない体験や気づきが、SDGs 達成の貢献につながります。

登米市は総合計画においてSDGsを取り入れ、市民と連携しながら「協働による登米市の持続的な発展」の推進に取り組んでいます。また、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシテイ」を表明し、再生可能エネルギーの活用や省エネルギー対策など、環境に配慮した取り組みをこれまで以上に進め、持続可能なまちづくりを実現していくこととしています。

豊かな自然を守り継ぎ、次代の子どもたちが安心して暮らせる未来のために、共に歩んでいきましょう。



作画協力
宮城県登米総合産業高等学校美術部

美術部は現在1・2年生18人で放課後に毎日活動しています。水彩画、油彩画中心ですが、最近はデジタル画を制作する部員も増えています。今回の漫画は、引退した3年生の元部長、及川千聖さんがメインとなってデジタルで制作しました。多くの人に見てもらえたらうれしいです。

登米市観光PRキャラクター
はっぴん

小麦粉を材料にする登米市の郷土料理「はっ」とをモチーフにした観光PRキャラクター。はっぴんのことをもっと知りたい人は、観光物産協会ホームページをご覧ください。

登米市観光物産協会ホームページ